

## 二十歳の誓い

僕はどこにでも居るいわゆる普通の大学生です。少し出しゃばりで目立ちたがり、内弁慶で人見知り、そんな二面性を持った人間です。でも中学校では生徒会長を務め卒業式では答辞を読みました。高校では先輩に推薦され、バスケットボール部のキャプテンを務めることになりました。経歴だけ見るとものすごく輝かしいです。自分でもそう思います。しかし実際はそんなに輝かしいものではありませんでした。

バスケットボールにおいてキャプテンは一般的に「4番」のユニフォームを着ます。「4番」と言えば花形です。でも僕はレギュラーではなく、控えでした。ほかのチームの「4番」は試合で活躍する中、笛が鳴っても僕はズーっとベンチに座っています。スポーツの世界は実力社会です。控えのキャプテンの言うことを聞いてくれない可能性がありました。部員からの信頼を得るために誰よりも声を出すことを意識しました。そしてみんなに気を配り「こいつがいるから練習に行きたい」と思われるようになるのが目標でした。

大学生になり、子どもたちと野外活動などをするボランティア団体に入りました。そこで出会った一人の仲間に、自分の弱点に気づかされたのです。彼は、「自分のことは後回し。団体のため、仲間のためなら人の嫌がることを率先してやる」そんな男です。中学・高校と人を引っ張る立場にあった僕は、むしろ上辺だけ取り繕うのが上手くなり、人の目を気にしてばかりの人間であると気付かされました。

将来の夢はまだ見つかっていません。ふわふわと宙ぶらりんに生きています。でもこれも二十歳という年齢の特権かなと思います。今のうちに色んなところへ飛んでいき、色んな景色を見て様々な人に出会い、自分の世界を広げたいです。上辺だけでなく中身で勝負出来る人間になりたいです。

そしていつか、「人のために尽くす生き方」というのにも近づきたいと思います。とにかく今は、人生の岐路に立たされ選択を迫られたとき「どっちのほうが楽しい？お前が楽しいと思うのはどっちだ？」と問いかけ、「自分の心に素直に生きる。自分に嘘はつかない。」ということをして二十歳の誓いにしたいと思います。

令和4年1月10日 新成人代表 原田 隆矢